



10代までで水難事故の半数占める

国土交通省河川局が平成 14 年 3 月に発表した「水難事故の傾向」によると水難事故による死者・行方不明者の発生場所の 48% が河川や用水路、湖沼などの内水面とされています。(出典:平成 11 年度版「警察白書」)また、同資料内の「新聞記事に見る河川における水難事故の傾向」(平成 6 年～13 年、有効記事総数 302 件)によると 5 歳から 9 歳までの幼児の事故が全体の 20% を占め、10 代までで事故の半数に達しています。

月と曜日、時間では土曜日と日曜日で事故件数全体の半分を占め、次に水曜日が多く、最も事故の多い 8 月については曜日に関係なく事故が発生し、発生時間は午後 2 時から 4 時に集中しています。河川状況は穏やかな時の事故が全体の 3/4 に達し、急流部や流れの速い区間での事故は全体の 1 割に過ぎません。1～2m と 2～3m の深さでの事故が最も多く、全体の半数以上を占めます。また、川遊びでの事故が全体の約 6 割を占め、次いでキャンプや釣り、ボートの順で事故が発生しやすい傾向があります。

最も危ないシチュエーションは

こうした資料を基に国土交通省河川局は最も危ないシチュエーションとして、晴天の 8 月の日曜日、午後 2 時から 4 時において、5 歳から 9 歳の子供を連れた親子が、穏やかな川辺で水遊びをしているとき、高校生から大学生の青年が川辺でキャンプをしているときをあげています。このほかにも子供が水曜日の午後に水遊びをしているとき、夏休みの平日、日曜日の雨の日などが気を付ける必要があるシチュエーションであるとしています。

このほか、水深 1 m 程度の河川で 5 歳から 9 歳の子どもと 30 代、40 代の事故が多いことから、子供が水深 1m で流され、親や同伴者が子供を助けようとして一緒に流されるケースがあるものと推測しています。

